

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171600560		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・上尾瓦葺		
所在地	上尾市瓦葺2684-1		
自己評価作成日	平成 29年 8月 29日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 10月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境作り 1、笑い声が絶えない明るい環境 2、ご家族様、ご利用者様との良好な信頼関係づくりが出来る環境 3、玄関回りのお花などにより癒される環境 4、畑の野菜作りやフロア内の飾り付けにより季節を感じて頂けるような環境 5、職員のストレスが無く生き生きとした充実した毎日が送られるよう希望休がとれる環境

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念として「笑い声の絶えない施設」を目指している。作り笑顔はできても、笑い声は作れないとの方針のもと、利用者には、レクリエーション・行事を通して楽しみのある生活を過ごせるよう支援している。職員は、就業前に鏡で笑顔のセルフチェックをして、利用者に接するようしている。3ユニットのグループホームとデイサービスを併設し、広々としている。ユニットのドアは、利用者も開錠可能にしており、自由に行き来できるようにしている。敷地内の畑で野菜の栽培を行い、季節を感じられるようにしている。近隣の小・中学校との関係も良好で、運動会への招待、職場体験受入れなどを通じ世代間交流を図っている。地域の住民向けに、認知症についての勉強会を開催するなど、地域の一員の役割も果たしている。利用者・家族の意向・要望を職員間で共有できるよう要望ノートに記入している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しいホームづくり」という理念を踏まえ笑い声をキーワードにその人らしさを大切にした対応を心掛けています	法人理念と併せ事業所目標がある。笑顔に加え笑い声も重要と考え、「笑い声あふれる施設」と掲げている。会議等で、職員に質問し浸透度を確認している。運動会では仮装を行い、終始笑い声があふれていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域内での役割を果たすよう行事等に参加し交流を深めています	近隣の小学校から運動会への招待や地域の文化祭への見学等地域との交流は多い。認知症について地域向けに勉強会を開催している。中学生の社会体験の受け入れも行い地域の一員としての役割を果たしている。	地域とのつながりはあるが、より一層の親交を深める必要性を感じている。その一方法として、今年より始めた地域の人のための認知症講座の充実を図ることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で勉強会を実施しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。市の高齢介護課、介護相談員、包括の職員、自治会、民生委員、ご家族様に参加して頂き報告、話し合い、意見を頂いています	年間スケジュールを決めて、2か月ごとに開催している。介護相談員、自治会役員、家族等に加え利用者が参加することもある。家族から、行事の際、企画設営から手伝いたいとの声があがっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月ホームの現状をFAXして報告しています。また年数回市役所主催のサービス向上検討会議に参加しています	市担当者とは、毎月報告等で顔を合わせている。介護相談員の事業所訪問が毎月あり、行政との橋渡し役となっている。市主催のサービス向上検討会議で他事業所とともに市担当者に実態を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会を設け話し合いを行い職員会議で確認し共通の理解と実施を図っています	毎月、指定のチェック表を使い法人全体で取り組んでいる。職員が輪番で資料を作成し研修会を開いている。欠席者は、議事録を閲覧し確認印を押印し共有を図っている。フロア仕切りのドアは利用者も開錠可能にし、フロア間の行き来を可能にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待防止委員会を設け話し合いを行い見過ごされることがないように徹底しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し知識を深め活用出来るよう努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い理解、納得していただけるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に書面にて要望を確認させて頂いています	家族会を開催したり、面会時等に意見を聞くようしている。苦情受付のフリーダイヤルが設けられている。家族の要望は、要望ノートに記載し共有している。要望により、下肢体操や口腔体操の機会を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長直通の意見提案ポストを設けています。また管理者は随時面談を行っています	職員発案による切り絵教室を開き、利用者が多く参加している。半年毎に職員の個人面談を行い意見を聞いている。勤務内容等、職員の意見を聞き、適宜変更している。社長へ直接届く意見ポストが設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格制度が有ります。また年1度昇格制度が有ります		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修などを掲示し希望職員には時間を調整し研修の機会を確保出来るようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との会議に出席したり他施設イベントに参加し意見交換を行いサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い状況把握に努め職員間が知り得た情報を共有し安心を提供出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望は出来る限り応じる事が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望の確認、説明をしっかりと行い柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の尊厳を常に忘れず接するよう心掛け喜怒哀楽を共有しお互い支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡は密に行い家族間の絆を大切にし共にありのままの現状を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出のお手伝いや連絡補助等関係が途切れないよう支援に努めている	友人の来訪、手紙のやりとり、行きつけの美容院やお墓参り等を継続している方もいる。地域のふれあい喫茶に出かけ、馴染みの関係を築いている。以前からの趣味を継続し、イベント時に披露している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係把握に努めホール席を工夫したり、レクや行事等で関わりあえる様支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶を通して連絡が経ち切れない様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の喜怒哀楽の様子をそのまま記録し、話し合い、個性を理解し、利用者様の思いを大切にされた支援に努めている	生活歴や普段の言動から思いや意向の把握をするようにしている。意思疎通が困難な場合、表情や態度から読み取るようにしている。申送りノートに喜怒哀楽の様子を記入する欄を設け、職員全員で共有するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からのお話を聞いたり、情報提供書等を活用し、アセスメントを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療との連携を図り現状を総合的に把握出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別ケアカンファレンスを行っている。アセスメント、モニタリングは3ヶ月ごとに行い、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月毎に見直しをしている。状況変化時には変更している。普段からの情報をもとにスタッフ会議を開き、家族、医療関係者からの意見を加味して計画作成担当が作成している。家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りに記録し情報の共有を図り支援に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状変化時やその時のニーズに合わせ柔軟な支援、サービス多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の希望を第一にしています。また了承を得た嘱託医が訪問診療を行っている。専門科の受診時には紹介状を作成しており、通院介助の支援を行っている	かかりつけ病院を継続している方もいる。提携医療機関から医師・歯科医が定期的に訪問診療に来ている。専門医の受診にも対応し職員の付添もしている。歯科衛生士が毎週訪問し口腔ケアに注力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化に注意し訪問看護師への記録、申し送りの徹底をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に面会に行き病院関係者やご家族様との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の話し合いを都度行っている。看とり要望に対しても対応出来るよう関係者と共に取り組み中です	入所時に重度化についての説明書に基づき説明を行っている。家族から、終末期までの要望もあり、準備を整えている。経験ある看護師による勉強会、訪問医師からの情報提供等を受け、意識の醸成を図っている。職員のメンタルケアにも注視している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがある。また研修に参加したり、介護の場で確認を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、内1回は夜間を想定し避難訓練を行っている。また地域の消防団の方にも協力をお願いしている	避難訓練は、年2回、うち1回は夜間想定にて、消防署立ち会いで行っている。避難方法等のアドバイスを受けている。関連の警備会社からの支援体制が整い、自然災害マニュアル・備蓄品も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム独自の禁止言葉があり声掛けには特に注意を払っている。またプライバシーを確保した支援を行っている	言葉かけは、状況・個人にあわせ人格・プライドを損わない様対応している。居室入室の際、許可を得ようとしている。食事提供時間は臨機応変に対応し、その人のペースに合わせるなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい関係づくりや自己決定出来るような声掛けや環境づくりを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは有るが無理強い事なく一人ひとりのペースを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度理美容のカットの日が有り、ヘアカットやヘアカラーを希望にて実施している。また行事や外出時にはお化粧品などおしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回お楽しみおやつを行っている。また出前や外食を行い好きな物が召しあがれるよ支援している	テーブル拭き、下膳、食器拭き等を手伝う利用者もいる。誕生会には、利用者の要望を取り入れてのメニューを提供し、喜ばれている。大型スーパーのフードコートに出かけ、好みの食事をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量を記録、把握しその方に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士の指導のもとその方に合ったケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやシグナルを把握しその方に合った声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っている。またトイレでの排泄が出来るよう下肢筋力低下防止に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。意思疎通の困難な方には、表情や動きを察し誘導している。トイレ誘導への声掛け・ドアの開閉には、十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に原因を探り、その方に合った改善策を講じ薬に頼らないよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2以上と決まっていますが出来る限り一人ひとりの希望に沿った入浴が出来るよう支援している	希望すれば毎日入浴可能である。拒否の強い方には、時間帯や声掛けする職員を替えたりして対応している。柚子湯、しょうぶ湯の他リンゴ湯、バラ湯等も行っている。好みの石鹸・シャンプーを利用している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームのペースではなくご利用者様の生活習慣を大切に、その時々状況に応じた対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携を図り一人ひとりの薬情報ファイルを設けており、いつでも確認出来るようになっている。また変更時は会議や申し送り確認を徹底して行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく生活出来るようその方に合った個別ケアを行っている。また得意分野での役割が発揮できるよ環境づくりを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ毎日散歩に行っている。また個々の要望を把握しご家族様の協力をえながら外出の支援を行っている	気候の良い時季には、時間を決めて散歩に出かけている。車いすの方は、敷地内の畑に外気浴に出ている。初詣・花見・季節の花の見学に近隣の公園に出かけている。近くの喫茶店に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物日を設けたり月1回の移動販売で一人ひとり買い物を楽しんで頂けるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はいつでも使用出来るようになってきている。手紙の投函などの支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清潔に努め安心安全に生活出来るように努めている。また季節に合った壁飾りをご利用様と一緒に作って飾ったり、行事の写真を貼る等居心地良い空間づくりをしている	毎日、職員と可能な利用者で清掃を行っている。季節感のある制作を利用者で行い、掲示している。好みの音楽をかけたり、ラジオ体操を行っている。トイレの表示などは、手書きで大きく貼りだし、理解しやすいようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方その方に合った居場所を探り出し一人になれるスペースの確保やホール座席の工夫を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ品々の持ち込みやご本人様が居心地良く過ごせるように工夫している	チェスト・エアコン・カーテン・低床ベッドは備え付けである。仏壇・藤イス等を持ち込んだり、写真や作品を飾って個人の空間作っている。居室で、編み物や読書をして過ごす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事が継続出来るよう環境を整備し自立支援を行っている		